**桜と吉野山**

平安時代より、吉野は桜の名所であり、日本全国から人々が美しい桜を眺めに訪れます。

金峯山寺と吉野の桜の関係は、修験道の開祖である役行者（634–701）の時代に遡ると言われています。伝説によると、役行者は山桜の木に蔵王権現の像を刻みました。

何百年もの間、吉野の人々は、詩歌に語り継がれる圧巻の光景をつくりだす、山を覆う数万本の桜を守ってきました。桜は、蔵王権現を彫り出した木なので（もしくはご神木なので）、かつてはこの桜の枝を折った人は罰を受けました。今日でも、訪れる際は木を傷つけないように注意しましょう。

今でも、桜の木の健康と寿命を維持するために、多大な労力が尽くされています。吉野山にはもともと多くの数の山桜がありましたが、吉野に参拝した人たちはさらに山桜の木を植え続けてきました。地元の吉野の桜を愛する人々は、木々の状態を注意深く監視し、桜の種を集めて苗木をさらに育て、何世紀もの間、吉野山を象徴してきた風景を保全しています。

桜は、標高差により山の下方から上に向けて段階的に開花します。日本の他のほとんどの地域では桜の見ごろは1週間ですが、吉野では桜の季節は約３週間続きます。